

生徒自ら、「やってみたい」の実現 地域企業の課題を解決するためのアプリ開発

業務課題アプリ開発

西条 高校生が成果発表

西条市内の高校生13人が、企業の業務効率化などに役立つアプリ開発に挑み、25日に同市明屋敷の「SAI JO BASE」で成果発表会があった。3社から聞いた課題を受けて、約2カ月かけて作ったアプリの機能や魅力を紹介した。

市がデジタルトランスフォーメーション(DX)の普及を目的に、DX人材育成支援などを手がける東京の企業との協力を受けた。高校生は7月3日から、プログラミングの知識がなくても使える「ノーコードツール」で制作した。

丹原高2年藤原禄都さん(16)は、精密機械加工会社の社員が弁当を紙で注文していることを聞き、注文数や種類まで一括管理できるアプリを制作。同社から「紙より注文漏れを防げる可能性があり活用を検討したい」と好評を得た。



高校生が企業の業務課題の改善に向け開発したアプリの発表会

藤原さんは「普段学んでいることのないデジタルの分野を探究でき、他校の仲間とアプリの完成という目標に向けた。交流も深められた」と充実した様子だった。

(伊藤義樹)

藤原禄都さん(普通科2年)は、プログラミングに興味を持ち、西条市の活動に自主的に参加。西条市の高校生で、地域の課題を共有し、協働して解決に取り組みました。